

## 令和6年度 事業評価報告書

日時：2025年1月13日（月・祝）10:00～17:00

会場：京都市中央青少年活動センター

参加者：43名（職員22名／理事・評議員6名／外部協力者15名）

### 1. 事業評価の位置づけ

- ① 毎年の事業評価は、年度事業方針をもとに作成した事業プランで設定した評価指標をもとに、中間（概ね11～12月末時点）での評価を行い、実践の価値づけや課題整理を行い、次年度事業や今後の事業展開につなげていくことを目的としている。
- ② 各事業所で取り組んだ事業評価は中間での評価で、本来は年度終了後にも事後評価すべきものである。現状では翌年度4～5月に事業報告を作成するが、年間の事業をふりかえり、評価することを経て事業報告を作成するものとして捉える。

\* 年間事業に関する計画・評価の一連の流れ（①②より）

1月	2月	3月	4月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
2024年度 事業方針	事業プラン・ 計画作成	事業計画 理事会承認	事業プラン 修正	上半期事業 報告作成	上半期報告 理事会承認	事業所内 中間評価	事業評価会 →分析	-	-	事後評価 →報告	事業報告 理事会承認
						2025年度 事業方針へ	事業プラン・ 計画作成	事業計画 理事会承認	事業プラン 修正	-	

### 2. 事業評価会の進め方

- 職員や役員の内部評価ではなく、外部評価委員を交えた評価会とする。
- 取り扱う事業について  
全体で150以上の細かい事業があり、そのすべてを取り扱うのは困難であり、各事業所より1事業項目2～3事業を抽出し議論する。事業抽出の観点は事業所ごとに異なるが、最終的な目標は共通のものとする。
- 全体を7グループに分け（1グループ6名程度）、各グループで3事業所分の事業評価を実施する。具体的には、各事業所が作成した自己評価をもとに、事業を実施した結果の「事実」に基づき、「どんな成果（若者の変化、若者を取り巻く環境の変化等）がもたらされたか」を報告する。それを受けて、参加者はシートを記載。
- シートは、「団体の大切にしたいこと」8項目と照らし合わせ「どの項目をどの程度生み出せている事業か」「その理由は何か」を記載する。
- 記入した内容を出し合いながら、意見交換を行い、多様な視点で捉え直す。
- 最後に外部評価委員より評価コメントをいただく機会を持つ。

### 3. 事業評価会アンケートより（外部評価委員よりのアンケート結果）

#### （1）事業評価が十分にできたか（価値抽出が十分にできたか）

\* 平均 76.9 点（50-100 点）

#### （2）改善ポイントとその理由

- ・指標にそっての評価が困難なものもあった。
- ・多様な解釈があるという点では非常に良かったが、青少年活動センターと子ども・若者支援では役割が大きく異なるため、評価基準にうまく照らし合わされない部分があった。
- ・事業評価シートにある「大切にしたいこと該当項目」の評価は必須としたほうが、現場の事業者が重視している観点に対する議論が深まる。
- ・プリンシプルに照らした際に評価がマッチしない事業所もあり、空白が複数あり、評価として十分にできなかった部分があった。
- ・発信や意見表明が好きな若者と、ユースワーカーが会って、参画を促していく、という点で非常にエネルギーが評価会だった。一方で、自分の意見を表明することに意味を感じない、あるいは伝えられるような言葉を持たないが、それでも青少年活動センターや自団体の事業に何となくいる若者もたくさん存在する。無目的性という点と、自分も場に参加しているうちの一人だという感覚の中での参画の両立が難しい。しかし、そのような若者にとっての“余暇”の価値が認識されることができれば、個人的にはより満足できる評価会となる。
- ・目標として、量的・質的に設定されているものが、おそらく“これが出来たら良い!!”と思えるものになっていない。
- ・評価者である私自身の「団体として大切にしていきたいこと」への理解が追いついていないことが要因となっており、次回参加時は学んでから参加したい。
- ・エピソード・ナラティブを複数ききながら評価できるとよりよかった。一部しかわからないまま評価したところがあった（しかし、ヒアリングで聞くにはつっこみすぎ？時間ないかも？）
- ・「大切にしていきたいこと」がチェック项目的な運用になってしまい価値をひきだすコミュニケーションになりづらい場面があった。評価シートの情報が限定的で、発表者の口頭説明に重要なポイントが含まれている状態だが、ポイントが明確になって、それが紙面に書かれていると良いと思った（→ 意見交換のポイントが散まん）

#### （3）事業評価ヒアリングを経て、改めて考える「団体の価値」とは何か。

- ・「多様な出会いの機会づくり」人と人が出会うことでうまれる“何か”が大事だと再認識した。
- ・若者の声や主体性が大切にされてほしい。一方的な若者への期待だけではなく、若者が求めることが反映されるものであってほしい。そのためには若者からも発信していかなければならないと感じた。
- ・居場所づくり
- ・自分は若者の立場なので、地域や社会ともっと積極的に関わっていくことが大切だなと感じた。
- ・個人が抱える生きづらさに対する想像力を豊かにしてボランティアを続けていきたい。
- ・地域連携事業は、若者だけでなく広く市民を支えるセーフティーネットづくりに寄与するもの。連携団体側としても大切に取り組んでいきたい。
- ・1つは、無目的に、自由を楽しみに来ている若者を支えられる環境を保つこと。この環境が保たれることも、若者の健全な余暇活動において、重要な要素と考える。  
2つ目は、そういった若者に対する大人の無力感や、若者が自由すぎる故の怒り、何か他の仕事をしていたいという気持ちなどを、職員同士で十分に分かち合っていく術を考えること。若者にとって自由で健全な環境を守るには、職員への支援が重要であると考え。
- ・～し続けること（継続が重要）
- ・「若者が主体」にあること、そのことを事業に参画する人全員が大事にできていること  
ユースワークの根幹でもあることだが、自団体スタッフだけではなく地域や社会と共に取り組む事業も増えている中で、かかわる人たちみんながその気持ちになることが重要だと感じた。
- ・若者主体。声が正当に扱われること。つながっている実感を若者が得られていること。
- ・若者主体、声を正当に扱うために社会に働きかける→職員が当たり前のように若者との関わりの中で実践していることと感じたが、それこそ価値だと思った。

(4) 事業評価ヒアリングを通して得られた気づきがあれば記載ください。

- ・青少年活動センターの職員、子ども若者支援室の職員、その他事業を展開する方など、様々な立場の人が集まることで、各々の役割が明確になったように思う。
- ・若者である自分たちのためにこんなにもたくさんの大人たちが関わってくれていることを知って、今後の活動は以前よりもより積極的に参加し、青少年のみなさんの居場所づくりに励みたい。
- ・別の評価軸の方が効果的に感じました。
- ・当法人の取組が地域に根差した信頼されている事業であるという強みを知ることができ、誇りをもってボランティアに取り組んでいこうと思えました。
- ・目標、指標が明確に定められ、外部の視点を入れて評価会を設けられていることに驚きました。すごい取り組みです。
- ・それぞれの事業で、新しい利用者を集めるということと、利用を継続したくなる環境を作ること、などの両立が非常に難しく、ユースワーカーが尽力していることを学んだ。
- ・決めない・考え・話し続けることの価値。
- ・団体の在り方として、事業評価に若者を入れている点が素晴らしい
- ・若者の参加・参画について深められる。地域とのつながりについて深められる
- ・プリンシプルに基づく評価をどのように時期のプランニングに反映するか、ここの解像度を上げていきたい。
- ・プリンシプルに基づく成果設定（LM で整理）→成果のふりかえり（評価シート）⇒どういふプロセスにすると良いか次回までに整理したい。

(5) その他（今日の感想や体制課題、次年度の“事業”・“評価”に望むことなど）

- ・貴団体では区域を中心として動いていただきたい。その中で若者支援団体へのスーパーバイズ機能をもっていたら心強い。
- ・皆さんの活動やその思いを聴き、とても勉強・刺激になった。
- ・各センターの活動の様子を知ることができ、自分の視野を広げるきっかけになった。
- ・センター毎の「As is / To be」の設定（があるといい）
- ・評価にあたって、共通して「若者の声」が聞けたらいいなと思いました。
- ・ペルソナではないが、具体的に“この子”という子ども・若者を、2~3人くらい挙げて報告してもらえたら、より解像度があがりそう。
- ・事業評価の場自体に感銘を受けた。ユースワークをどのように地域や社会と共につくっていくのか、改めて考えたいと思った。参加させてもらえてよかった。来年度もぜひ。
- ・評価会を経て、実際にやってみることになる取組を聞きたい。

#### **4. まとめ**

- ・今年度は Principle ベースの評価を始めて 3 年目になり、一定浸透してきている様子も窺えたが、まだ課題も多い。以前のような問題解決のみへのフォーカスだけではなく、価値抽出の視点が増えていることは経年変化としては評価できそうであるが、評価委員のコメントからは温かくも厳しいご意見もあり、まだまだ改善の余地はありそうである。
- ・今年度はチーフ会において事業評価についての研修を実施し、次年度に向けて事業評価の枠組みの改訂にも取り組んできた。その過程において評価会の意見は非常にありがたく、エピソードを用いたシート作成等、改善に取り組みつつ、ロジックモデルをベースにした評価シートのに再構成につなげたい。
- ・事業内容への反映もそうであるが、団体の根柢の価値である Principle についても作成から 3 年が経過し、その内容の見直しも必要性を増している。Principle 更新をするうえでも今回の評価会の意見は有用なものであり、次年度に反映していきたい。